

ご覧頂きありがとうございます。

ここは、日本語入力法の一つである「かえですか」についてのWikiです。

[記述基本方針](#)に反しない限り、自由に解説を追加することができます。

編集方法については、[atwikiの使い方](#)をご覧ください。

ページの編集メニューは、各ページの一番下にあるプルダウンメニューから選択してください。

ページを削除する必要がある場合は、[この日記の適当なコメント欄](#)にてお知らせください。

【お知らせ】

現在、「[かえですか](#)」を評価打鍵して下さる、[タイパーさんを募集中](#)です。

参加条件については、[このリンク先にある記事を参照](#)ください。

このWikiへと導入する可能性があるテキストについての、記述者による許可リスト。

- [飛鳥カナ配列作者のRay氏による宣言](#)

- 「かえですか」「かえでレフティあすか」「かえでライティあすか」は、飛鳥カナ配列を基礎とした「My配列」のひとつです。

『かえですか』って、何？

かつて、2000年から2010年までの間に「[飛鳥カナ配列](#)」という、ちょっと変わった（一言で言うと「JISキーボード用親指シフト」）入力法が製作されていました。

そんな中で私（相沢かえで）は、2005年に公開された「飛鳥カナ配列 21世紀290版」という途中版を、しばらく使っていました……これは言葉で説明するよりも、[tomoemonさんによるタイプウェルXA動画](#)をご覧くださいほうが早いですね。

その後、2007年には規則性よりも速度を優先し始めた[21世紀-356版](#)という途中版が公開された……のですが、これを使ってみて、ふと『私が欲しいと思う方向とは違う！方向に進化し始めている』ことが気になりました。

（実際、その後の飛鳥は「制御キー（Backspace/Enterなど）を、より手元へと近づける」方向に進化しました。私自身もこういった制御配列の近接化について、実際に評価打鍵を行ってききましたが、[結果的には『誤打鍵癖が付きやすくなる』デメリットの影響が予想以上に大きく、これはあえて採用しないことにしました。](#)）

そこで、「飛鳥カナ配列」の完成を待つことなく、『356版の構造を、290版風に巻き戻しつつ、少し簡単方向に振ろう！』と考えて、これを調節することにしました。

結局、[49日間掛けて細々と入れ替えを行い、結果2007年10月07日に出来上がったのがこの『かえですか』](#)というわけです。

文字類をいくつか入れ替えたとはいえ、飛鳥カナ配列が持っていた「[段系配列という考え方](#)」はそのまま引き継いでいて、配列の基本的な性質は変わっていません。

ちなみに、私自身は『[鈍足タイピング動画 親指シフト系の「かえですか」で打ってみた](#)』の速度でしか使っていないので、速く入力したときにどうなるか、という点についてはまったくテストできていません。

冒頭に挙げた『タイパーさんを募集中!』という話は、ここから始まっています。

かえですかをパソコンで使うための設定方法

【ヒント】かえですかを使用するためには、特別に対応したソフトウェアを用意する必要があります。

【ヒント】キーボードには、ごくごく普通の「ありふれた」I Sキーボードか「ノートPCに付いている」I Sキーボードを使ってください（親指シフトキーボードとかはつかっちゃダメ!です）。

【警告】会社・公共施設・共有機材などで使用する場合には、管理者による明示的な許可が出るまでは“絶対に”これらのソフトウェアを利用してはいけません。

Windows

- [「姫踊子草2」を使う場合](#)
- [「やまぶき Ver2.x」を使う場合](#)
-

Macintosh

- [「Tesla」を使う場合](#)
-

Linux

-

BTRON(超漢字V)

- [イネーブルウェア標準機能を使う場合](#)
-

かえですかを練習するための方法

【ヒント】一つの練習方法にはこだわらず、自身にとってやりやすい方法を「組み合わせて」練習してみましょう。

50音引き早見表

- [かえですか・記号早見表](#)
-

基本的な練習方法

- [ひらがなの50音順を利用した練習法](#)
- [ひらがなの頻度順を利用した練習法](#)
- [指の動かしやすさの差を利用した練習法](#)
- [「増田式練習法」の本を使う練習法](#)
- [ホームポジションを「叩くフリ」をする練習法](#)
- [ホームポジションを「叩くフリ」をする練習法・指ごと練習編](#)

分からないことは？

- [かえでするか製作者のBlog](#)(注:外部リンク)
 - [キーワード「かえでするか配列」を含む記事](#)

より快適にご活用いただくために、

一般的なキーボードは、(特に小柄な)日本人にとっては大きすぎると感じられることが多いと思います。

たとえば、かえでするかの作者は身長169cmですが、作者自身はローマ字入力をするときに使いやすいキーボードを探し求めた末、最終的には15mmピッチ(キーに指を置いたときの、指同士の間隔のこと)という極小キーボードにたどり着いてしまいました。

でも、そんなキーボードはそこらじゅうにあるというわけもなく、選択肢は極めて少ないというのが実情です。

.....そこで作者は考えました。

『キーボードを小さくするのではなく、文字の割り当て位置をぐっと中央につめれば良いじゃん!』.....と。

いろいろテストしていくうちに、かなり近い解として『飛鳥カナ配列』というのが見つかったので、それを使ったうえで調整し、結果として『かえでするか』が出来上がりました。

市場に存在するほとんどのキーボードは、キーピッチが16~19mmの範囲で設計・製造されています。かえでするかでは、この範囲に「ほとんどの女子」と「小学生以上~中身長の成人男子」があてはまるようにすることを目指し、身長169cmの作者が18.5mmピッチのキーボードを使って調節してきました。

そのため「かえでするか」では、以下の表に掲げたキーピッチを持つ、超ありふれたJISキーボードでお使いいただくことを、強くお勧めします。

ユーザーの身長 かえでするかの利用に適切と思われるキーピッチ

132~147cm 16~17mmピッチ

148~162cm 17~18mmピッチ

163~177cm 18~19mmピッチ

こういった「体格×ピッチ」の対応表は、入力法ごとにそれぞれ値が異なる(作者の場合、ローマ字入力では15.0mmピッチ・「かえでするか」では18.5mmピッチと、かなり適合サイズが異なっていた)ことにご注意ください。

また、「かえでするか」以外の入力法における適合ピッチについては、この表とは異なる可能性が高いため、それぞれの入力法を設計した作者にお問い合わせください。

ちなみに「かえでするか」の利用者像としては、以下のような仮想ユーザー(左は身長169cm・右は身長154cm)を想定しています。



おおむね、「小学生ならB5ノートPC、成人女性はA4コンパクトノートPC、成人男性はA4フルサイズPC」を選択したときに、ほぼ適合するキーボードが付いてくるはず……と、そういったあたりを狙って設計しました。

高級なキーボードを用意する必要はありません……というか、そこらへんに転がっている、ありふれたJISキーボード（パソコンの付属品とか、ノートパソコンのとか）で丁度使いやすいように狙って設計しています。今まで使っていた入力法では高級なキーボードを使っていた！という方も、かえであすかを使うときには「ありふれたJISキーボード」を使って練習&使用してみてください。

それから……左利きの方は「かえでレフティあすか」を、右利きの方は「かえでライティあすか」を、それぞれ使ってみてください。

利き手の左右別については「左右反転配列を作る」ことで対応し、手の大きさの差については「多彩で安価な選択肢から好みのものを選ぶよう、普通のキーボードで使いやすいように作る」ことで対応しました……それが「かえであすか」流の、ユーザーインターフェースに対するひとつの答えです。

責任者...というか有責者

[雑記/えもじならべあそび@かえで\(yfi\)](#)

注:このページの色使いが見つらい場合、その旨お知らせいただければ標準的な色使い(モノクロ系の配色を使うもの)へと変更いたします。

関連するWiki

- [Macで親指シフトwiki](#)
-

同じ方針で編集されている、入力法に関するWiki,

以下のWikiは、類似のコンテンツで構成されています。

- [親指シフト\(NICOLA\)まとめWiki](#)
- [日本語入力法「飛鳥カナ配列」まとめWiki](#)
- [日本語入力法「かえであすか」まとめWiki](#)